

令和6年度 山梨県立韮崎工業高等学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	ものづくりを通して地域産業界に貢献できる技術者の育成
-----------	----------------------------

山梨県立韮崎工業高等学校校長 飯島 慶一郎

本年度の重点目標	1 基本的生活習慣を確立し、総合人間力の育成に努める	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	2 基礎学力の定着を図り、生徒の進路実現に努める		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	3 生徒会活動・部活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成に努める		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
	4 社会的自立・職業的自立に向けた力を身に付けた、工業のスペシャリストを育成する		D	達成できなかった。(4割以下)		1	できていない。

自 己 評 価				年度末評価(令和7年2月10日現在)		
本年度の重点目標				自己評価結果		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	基本的生活習慣を確立し総合人間力を高める指導の充実	①教職員の情報の共有化に努め、遅刻を繰り返す生徒の原因究明を行い、継続的な指導に努める。 ②バイク・自転車安全運転教育・点検の充実と自転車の交通ルール、マナー違反の改善に努める。 ③7S活動の徹底、通学路のゴミ拾い、ボランティア活動等を実施し、環境美化意識及び愛校心、社会貢献精神の涵養に努める。	各月ごとの数的推移 実施結果の検証 アンケート及び実施結果の検証	・特定の生徒が遅刻する傾向が強く、これらの生徒は家庭での教育力が不足していることや身体的、精神的な面で問題を抱えている傾向がある。粘り強く指導を行うとともに、教育相談員や生徒支援員によるカウンセリングを実施しながら改善を図った。 ・通学途中の自転車、原動機付自転車による事故違反の報告が多数あった。。交通安全実技講習会等を実施し、交通安全教育の啓発を図った。 ・あけぼの支援学校との交流、独居高齢者宅訪問ボランティアを実施した。甘利山清掃活動は他の行事との関係で未実施となった。	B	・規範意識を高められるよう、学校全体で改善に向けて取り組んでいく。また、教育相談員や生徒支援員と協力して支援していく。 ・自転車、原動機付自転車のルールやマナーについては粘り強く指導していく必要がある。自転車用ヘルメットの義務化にも対応していく。 ・熱中症が心配される時期などの実施については、見直していく必要がある。ボランティア委員のみの実施にとどまらず、自主的に取り組める生徒の育成を進めていく。
2	基礎学力定着のための指導と個々の生徒の進路実現及び夢の実現にむけた指導	①わかる授業実現と評価方法の見直しを図りながら、生徒の学習意欲の向上に努める。 ②基礎学力が不十分な生徒への補充的な課外学習等に努める。 ③進路実現にむけて各種進路行事・活動に積極的に取り組ませるとともにコミュニケーション能力の育成を図る。	授業アンケートと授業観察 基礎力テストの結果の検証 アンケート及び進路実績の検証	・学校評価アンケートでは、86.5%の生徒が「先生はわかりやすい授業を工夫している」と回答、また89.0%の生徒が「テストの得点だけでなく、様々な観点から評価してくれる」と回答し、授業に対する満足度は高い。 ・日頃の学習をサポートするために補習などの機会が設けられていると回答した生徒が89.3%と高い値であった。 ・進路行事については、コロナ前の状況に戻り、平常通り実施した。	B	・各教科でBYODの活用状況に差はあるが、先生方も創意工夫を行った授業を実施している。BYODを使用することが目標ではなく、わかる授業の実現に向けて効果的に活用する方法を考えていく。 ・学校評価アンケートより、家庭学習に取り組んでいる生徒は62.9%と低く、主体的に学習に取り組む姿勢を育てていく必要がある。 ・平常の形で進路行事を実施できた。さらに進路指導を充実させ、進路実現を目指す。
3	生徒会活動・部活動の活性化と活動を通して豊かな人間性と逞しい身体の育成	①生徒会活動を通しての自主自律の精神と道徳性の向上に努める。 ②指導内容の工夫や生徒による主体的な活動を推進し、時間外勤務の削減と部活動の活性化の両立を図る。 ③生徒が主体的に取り組める学園祭の企画と立案や広報活動に努め、積極的な取り組みを図る。	アンケート及び活動実績の検証 活動実績の検証 実施後アンケート結果	・今年度の学校行事はコロナ前に近い形で実施できた。 ・部活動もコロナ前のように実施でき、学校評価アンケートの「部活動が活発に行われている。」が83.6%と高く、生徒の満足度が高かった。 ・学園祭も体育祭、文化祭とともに例年通り実施でき、生徒の満足度も上がった。「学校行事は充実している」が84.9%と高かった。	B	・学園祭を例年通り実施できたことは、生徒の自主自律の精神の向上につながった。半面、コロナ期間があったために、様々な面でいわゆる伝統文化の継承ができていないことが露呈した。古き良き伝統を生かしながらも新しい試みに挑戦していく必要がある。 ・生徒会活動及び部活動に対して、生徒が主体的に取り組める環境作りに努め、学校生活への達成感をさらに上げていきたい。
4	高度な知識・技術を習得した工業のスペシャリストの育成	①企業実習や企業見学への事前指導を強化し、効果的なインターンシップの実施に努める。 ②進路実現・資格取得に向けて地域連携ものづくり事業を有効に活用する。 ③産業技術短期大学校等の外部機関と連携し、国家技能検定などの高度資格に挑戦させ合格者の増加を図る。	実施後アンケート結果 取得実績の検証 取得実績の検証	・例年通り企業実習を実施することができ、就職内定率100%を達成できた。 ・「進路指導は、生徒一人ひとりの目標達成に役立つように行われている」が90.9%と生徒の満足度も高かった。 ・地域連携ものづくり事業を活用した資格取得の講習会等や、外部機関と連携した指導が実施でき、資格取得の充実につながった。	A	・地域産業界にて活躍できる人材の育成は、地域に根差した工業高校である本校の使命である。進路決定率100%を継続するためにも、今後も継続して指導を充実していく。 ・資格取得実績について、生徒数の減少もあり取得数は徐々に少なくなっている。取得率では大幅な減少は見られていないので、今後も資格取得の啓発を行っていく。 ・外部機関との連携は、生徒の成長に不可欠だと感じている。今後も未永く実施していく。

学校関係者評価	
実施日 (令和7年2月14日)	
評価	意見・要望等
4	「技術は人なり」を実践していると思います。引き続き、「技術者の前に良き人づくり」を展開できる工業教育を期待しております。 「7S」は韮崎工業独自の安全教育だと思います。内外にPRすることが望めます。 習慣は長い間に身につく事柄であり繰り返すことが重要と思う。継続的な指導に努めてほしい。 ヘルメットの着用(自転車)が昨年より定着しているように感じる。また、毎朝の先生方の自転車置き場でのやり取りなど、良いコミュニケーションの1つだと感じる。同じ事を繰り返して指導受けられることは、信頼関係の基礎だと思う。
4	授業参観を通じて、ICTを活用して、わかりやすい授業になるよう努めていることが良くわかりました。座学の中に実習的要素を取り込むことで工業生の興味関心をより高めることができるのではないかと思います。基礎学力の充実にベネッセなど外部機関の、より積極的な参入の必要性を感じます。 県立工業高校であれば、甲府工業高校専攻科への進学を視野に入れた進路活動の必要性を感じます。 各種の資格取得に積極的な姿勢はとても良い傾向と思う。学力が不十分な生徒への対応は根気強くお願いしたい。 ただ高学力を目指すのではなく、個人の望む学習に沿った指導は進工ならではと思う。技術習得も分野が多く選べる。それは、とても恵まれた環境と思う。
3	学園祭の中に企業の方々を招く工業展の積極的な開催が望まれます。 先生方の時間外勤務には感謝したい。 先生方と生徒の意見の相違もあると思うが、理想的な話し合いのマナーを身に付けて欲しい(両者に)部活が苦手な子供もいる今の時代に沿う活動を模索してほしいと思う。
4	求人状況が良いこの時期に企業の協力は得やすく、課題である長期企業実習の再構築の必要性を感じます。真の長期企業実習の実現により、企業と学校の連携協力がさらに深まり、地元企業に有為な人材輩出の可能性がさらに拡大すると思います。地元企業に応援してもらえ体制づくりが必要で、来年度のコミュニティ・スクールのメンバーに地元企業、地元経済界、地元自治体の関係者の参加が望まれます。 伸びる生徒は積極的にもっと伸ばしてもらいたい。つられて伸びる生徒も増えると思う。 多種の中から、現実的に必要となるところへ挑戦できることは素晴らしいと思う。また、学びと仕事の結びつきが明確なことも、とても良いことで自信につながると思う。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。